

教育課程の編成の考え方及び特色

中央教育審議会は、高等教育機関に在籍する社会人学生が増加していることに鑑み、答申「大学等における社会人受入れの推進方策について」（2002年）にて社会人受入れのための柔軟な施策を提言しており、これを受けて文部科学省は、制度の整備を行っている。これを踏まえて、本学では、社会人としての職務上のスキル向上につながる柔軟な教育課程とする。

1. 基本的な考え方

本学の教育課程は、設置の趣旨に基づき共通科目、専門基礎科目、専門専攻科目に区分する。これによって、学生の教養力を開発するとともに、それを専門的能力と結びつけ、応用力豊かな職業能力を伸ばすことを目的としている。

また、社会人を対象とする通信教育の特色を生かすために、理論的な学習だけでなく、現場経験に基づき、それを生かした具体的な内容を実践的に学べるように授業科目を配慮し、実務系の教員の適切な任用に工夫を加えている。特に、専門専攻科目では、現職経験を生かすコースの選択やキャリアアップをにらんだ履修計画を指導することにより、理論に裏付けられた実践的教育の成果を生み出せるようにしている。

2. 共通科目編成の特色

2-1. 共通科目

共通科目では、大学教育を行う上での基礎となる幅広い知識や教養を身に付けるための科目を設置した。豊かな人間性を育むためのコミュニケーション能力の習得に重きを置き、学生が自ら積極的に物事に取り組む意思や能力を持てるように教育する。社会人学生を考慮し、自己能力の開発に関わる「自己開発系」、コミュニケーション能力の開発に関わる「コミュニケーション系」、広く基礎教養を習得する「教養系」の3分野を設置し、社会人学生の履修の目的が明確になるよう工夫している。

共通科目は、1～2年次の履修を奨励するが、社会人学生の時間的な制約を考慮して、1～4年次配当とする。

また、特に以下の科目は、スポーツコーディネーターとして必要な実践的な技術と知識を学ぶ基礎科目として設置した。

文章作成・表現法Ⅰ、文章作成・表現法Ⅱ、コンピュータ情報処理Ⅰ
コンピュータ情報処理Ⅱ、情報セキュリティ、プレゼンテーション法
問題解決力開発法、思考力開発法、メディアリテラシー
現代社会とコミュニケーション

なお、以下の科目は、専攻に関わらず、専門分野に多様な視点から取り組むことを可

能にするための基礎教養である。

政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、社会学、政策科学、経済学、経営学、文学、法学Ⅰ、法学Ⅱ、哲学、倫理学

先のスポーツコーディネーターとして必要な実践的技術と知識に関わる科目の履修と、こうした基礎的な教養科目の履修とをつなぎ合わせることにより、幅広い応用力の開発が可能となると考える。

2-3. キャリア開発に関わる科目の開設

中央教育審議会大学分科会では、大学教育と卒業後に社会から期待される能力との関わり等に関し、各種提言を行ってきた。2010年4月の社会的・職業的自立のための指導に関する大学設置基準の一部改正（第6章教育課程）を踏まえて、本学では「社会的・職業的自立に関する指導」（キャリアガイダンス）、幅広い職業意識の形成に着目した科目として、共通科目に下記の科目を開設する。

プレゼンテーション法、キャリア開発論Ⅰ、キャリア開発論Ⅱ、問題解決力開発法、思考力開発法

3. 専門科目編成の特色

3-1. 専門基礎科目

専門基礎科目は、生涯学習論を基礎に置くことにより、スポーツプロモーションの理念を幅広い視点から理解する。そして、スポーツコーディネーターとしてスポーツにおける需給のミスマッチを防ぎ、スポーツ享受主体である市民や地域住民の個別的な生活条件に応じたスポーツ享受をサポートするために、スポーツ条件、時間や仲間、場所や指導者、プログラムや施設設備などをコーディネートするとともに、地域生活と社会のエンパワーメントに貢献できる総合的、専門的な視点を身に付けることを目的とする。

また、専門基礎科目は、社会人学生の現職経験を生かしながら高い実践力を養うため、スポーツコーディネーション活動を課題に方向付ける「実践課題系」と、具体的なスポーツコーディネーション活動に関わる「応用課題系」の二つの領域に区分して科目を開設し、両方の履修によって領域をつなぎ合わせる総合力を養うことが特色である。

さらに、専門基礎科目では、スポーツの諸問題を多角的にアプローチし、効率的、効果的な支援活動や事業運営等について学ぶが、これからのスポーツプロモーションをコーディネーションの視点からサポートすることを念頭に、そのためには何が必要なのかを自分の課題として考えて学習を進めるように履修ガイダンスを行う。これによって、社会人学生の現職経験との有機的な関係性を持たせるよう工夫する。

3-2. 専攻専門科目

専門専攻科目では、スポーツプロモーションの各実践分野におけるコーディネーション能力の開発のための最先端理論を学習する。ここでの専攻とは、卒業後の活躍場面や職域を想定した能力開発を目指して構成される履修上のカリキュラムであり、3年次より選択し、自己の現職経験と資質や将来展望に基づいて、集約的・組織的に学習するように設定したカリキュラムコースである。コースは、「生涯スポーツコース」と「トップスポーツプロモーションコース」の2つを設置し、学生は、このいずれかのコースを選択して、具体的なスポーツコーディネーションの能力を開発する。

コースごとの教育の目的・特色については、次の通りである。

(1) 生涯スポーツコース

このコースは、地域生活における市民のスポーツ享受を高めるスポーツプロモーション、もしくは個々人の個人生活及び社会生活におけるヘルスフィットネスの享受を高めるプロモーションを、コーディネーションの側面から支援し、活性化するための能力を開発するコースである。

このコースは、共通科目の学習を通じて、現代社会の特徴を理解し、それへの対応法と説得力ある自己主張とコミュニケーション能力を開発し、専門基礎科目では、これからのスポーツ、さらには生涯学習・教育現象に関する諸特徴を学び、そこにおける一般的なコーディネーションの在り方やプロモーション活動の展開に関する能力を開発してきた学生を主たる対象とし、これらの学習を自己のキャリアと結びつけて具体的なプロモーション活動をイメージさせて、履修計画を構成するようにする。

基本的には、生涯スポーツの学習を軸としながら、コミュニティスポーツプロモーションに関する科目、もしくはヘルスフィットネスプロモーションに関する科目を中心に学習し、例えば、地域住民のスポーツ享受をプロモートするためのコーディネーション活動に携わったり、地域住民のヘルスフィットネスをプロモートするためのコーディネーション活動に携わったりする能力を開発する。

講義科目では概念や理念、考え方などの理論的な学習を重視し、演習科目では、それらの理論学習を社会人学生の現職経験やキャリアと結びつけ、より高いスポーツコーディネーションの実践モデルをデザインする能力を開発する。

到達目標は、生涯スポーツの専門職として、次の例を示す。

行政の地域振興・スポーツ振興の担当者

行政の健康増進事業の担当者

スポーツクラブマネジャー

スポーツ活動に携わる社会教育主事

公共・民間スポーツ施設の管理運営者
スポーツ指導者

(2) トップスポーツプロモーションコース

このコースは、主として、競技スポーツのプロモーションを、競技者能力を発揮・開発するためのコーディネーション能力を基盤にしながら、それを取り巻くより広いコンテキスト、例えばスポーツ報道やスポーツイベントとの関わりから支援し活性化能力を開発するコースである。

このコースは、共通科目では社会科学全般についての学習を深め現代社会に関する理解力を高めるとともに、語学を中心にしてコミュニケーションの能力を伸ばし、専門基礎科目の実践系では、トップスポーツ論やスポーツジャーナリズム論、スポーツマーケティング論等を学習し、応用系ではトップチームのマネジメントやスポーツパフォーマンス論、リスクマネジメント等を学んで、主として競技スポーツのプロモーションを中心に学習してきた学生を主たる対象とする。

そして、これらの学習を社会人学生としての現職経験とキャリアに結びつけて、具体的なプロモーション活動をイメージし、そこにおけるコーディネーション能力を開発する履修計画を構成するようにする。

基本的には、トップスポーツプロモーション論とトップスポーツコーディネーション論を軸にして、スポーツジャーナリズムやスポーツコミュニケーションに関する科目、もしくはスポーツイベントに関する科目を中心に学習し、スポーツ報道におけるコーディネーション能力やスポーツイベントにおけるコーディネーション能力を開発する。

講義科目では概念や理念、考え方などの理論的な学習を重視し、演習科目では、それらの理論学習を社会人学生の現職経験やキャリアと結びつけ、より高いスポーツコーディネーションの実践モデルをデザインする能力を開発する。

こうして、学生は、社会人学生としての現職経験としっかりしたキャリア感覚を有効に生かし、明確な目標を持った専門専攻科目の履修によって、キャリアアップにつながるスポーツコーディネーターとしての能力を開発する。

到達目標は、トップスポーツプロモーションの専門職として、次の例を示す。

スポーツ団体・組織の運営管理者
スポーツ系企業の営業担当職員
スポーツ指導者
行政の地域振興・スポーツ振興の担当者
スポーツクラブマネジャー